二〇一八年六月一日

親燕出入りす軒に雨宿り　なつき
紫陽花の迷路をぬけて古刹訪ふ　やよい

二〇一八年五月三一日

茶屋の窓全開したる菖蒲園　さつき
ぴかぴかにキッチン磨き梅雨に処す　菜々

二〇一八年五月三〇日

背高の築地塀越ゆ花棟　せいじ
曇天や谷戸の間遠にホトトギス　こすもす
雨粒をのせて艶増す花菖蒲　さつき
万緑に響く応援太鼓かな　満天
箸紙を句帳代りに避暑散歩　よう子
玉砂利の参道覆ふ青葉かな　はく子
園児らが実梅拾ひのお手伝ひ　さつき
スカートをつまみて素足波を蹴る　智恵子

二〇一八年五月二九日

大蟻に思はず弁当持ち上ぐる　明日香

二〇一八年五月二八日

燕の子鳴きたる後の疲れやう　たか子
歩を運ぶたび風薫る石畳　愛正
鳥語聴く産土神の緑陰に　やよい
薔薇園のスケッチ赤の溢れけり　そうけい
小流れに沿ひし参道風薫る　菜々

二〇一八年五月二七日

巣燕や水子地蔵に糞こぼす　なつき
緋毛氈床几置かれし樹下涼し　菜々
雁行す歩板に沿ひて九輪草　ぽんこ
辻芸を励ます拍手路地涼し　たかを
東雲の空を切り裂くきぎすかな　よう子
年とれど更衣には遅れまじ　あさこ

二〇一八年五月二六日

路地裏の古書街暗し走り梅雨　なつき
池心へと天蓋なせる若楓　こすもす

毎日句会みのる選・二〇一八年六月三日